

配布日：二〇二〇年四月十五日

横山恵理

eri.yokoyama@oit.ac.jp

1. 講座紹介

本講座(横山担当分)では、『源氏物語』を読み味わいます。『紫式部日記』のような同時代に成立した作品や、一条天皇関連の作品・資料も適宜扱う予定です。

『源氏物語』の世界と、物語の外側にある世界を同時に見渡して、『源氏物語』の創造性を、皆さまと一緒に楽しむ時間にしたいと思います。

2. 年間予定紹介

(1) 二〇一九年度アンケート結果

二〇一九年度・歴史文学部最終授業において、「読みたい『源氏物語』」アンケートにご協力いただきました。結果は、以下の通りです。

〈読みたい巻名〉

桐壺Ⅱ8名、帚木Ⅱ1名、空蟬Ⅱ3名、夕顔Ⅱ5名、若紫Ⅱ8名、末摘花Ⅱ4名、
花散里Ⅱ2名、明石Ⅱ3名、霽標Ⅱ2名、薄雲Ⅱ1名、朝顔Ⅱ1名
玉鬘Ⅱ2名、初音・胡蝶・蛍・常夏・篝火・藤袴(いわゆる玉鬘十帖)Ⅱ各1名、
真木柱Ⅱ2名、藤裏葉Ⅱ2名、若菜上・若菜下Ⅱ3名、柏木Ⅱ9名、御法Ⅱ1名、
幻Ⅱ3名、匂宮Ⅱ2名、竹河Ⅱ1名、橋姫Ⅱ1名、宿木Ⅱ1名、浮舟Ⅱ5名、
蜻蛉Ⅱ1名、夢浮橋Ⅱ1名

〈自由記述〉

- ・音読して美しさを感じられるところ、綺麗な文章。
- ・ストーリーの主流。
- ・ドラマで誰をキャスティングするか、と考えられる巻がいい。
- ・この年代の女性の立場について。生計など。
- ・光源氏と藤壺をめぐる緊張関係。
- ・子どもを育てたことがない紫の上がなぜ養母になったのか。
- ・六条御息所の嫉妬深さや、それに対する光源氏の心の動き。

(2) 二〇二〇年度年間予定(横山担当分・全二十一回)

アンケート結果をふまえ、本年度・二十一回分の講義を、各巻に登場する〈人物〉に焦点を当てて構成することにしました。詳細は年間予定表を御覧ください。

(例)「桐壺巻」↓桐壺帝、光源氏。「帚木巻」・「空蟬巻」↓空蟬。「夕顔巻」↓夕顔。

(3) 年間予定表の補足

▼自由記述でいただいた内容のうち、各講義に取り入れられる内容は、各講義に含めます。

▼個別のテーマ(人物の設定や性格)は、その人物を扱う回で取り上げたいと思います。

▼光源氏のように『源氏物語』全体を通して登場する人物は、特に名前を挙げていない講義回でも扱います。

▼作者・紫式部との関わりが強くあらわれる巻では、『紫式部日記』等の資料もあわせてご紹介します。

▼絵画資料(国宝『源氏物語絵巻』や、室町〜江戸時代に成立した絵巻)もご紹介します。

3. 『源氏物語』を楽しむための参考資料(選書・新書を中心に)

本講座(横山担当分)受講に際し、必ず読んでおかなければならない資料というわけではございません。個人的にオススメの『源氏物語』全体に関する書籍や執筆者(敬称略)です。紙面の都合で掲載できない本が多いため、詳細は各講義でご紹介させていただきます。

▼『新編日本古典文学全集 源氏物語①〜⑥』(小学館)

授業では、こちらをコピーして配布します。注釈・古典本文・現代語訳つき。

▼山本淳子『源氏物語の時代―一条天皇と后たちのものがたり』

(朝日新聞出版(朝日選書820)、二〇〇七年)

『枕草子』と『源氏物語』を通して、一条天皇・定子・彰子の時代を考える、歴史文学部にぴったりの一冊。

▼山本淳子『平安人の心で『源氏物語』を読む』

(朝日新聞出版(朝日選書919)、二〇一四年)

▼清水好子『紫式部』(岩波書店(岩波新書)、一九七三年)

▼清水好子『源氏の女君 増補版』(塙書房(はなわ新書07)、一九六七年)

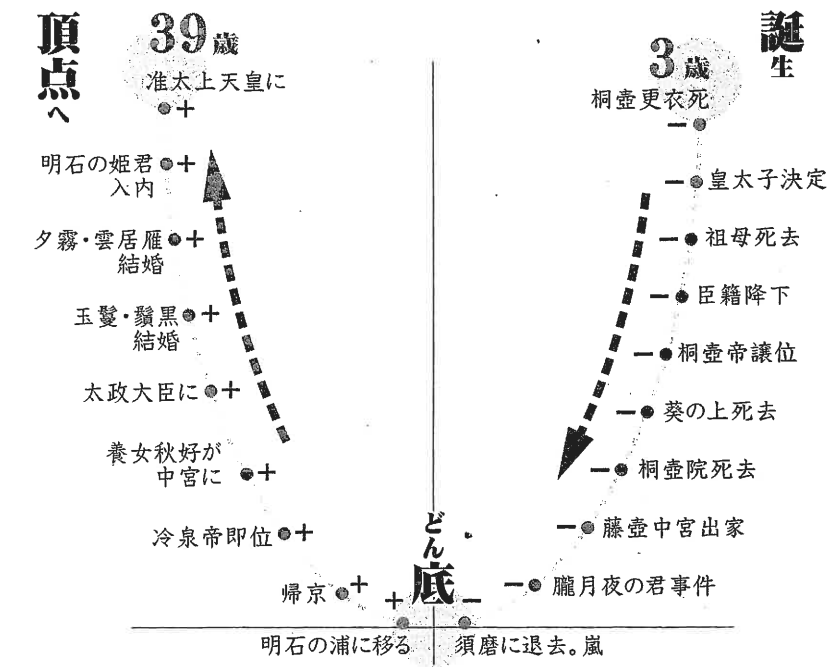
▼清水婦久子『源氏物語の真相』(角川選書、二〇一〇年)

▼三谷邦明・三田村雅子『源氏物語絵巻の謎を読み解く』(角川選書、一九九八年)

▼三田村雅子『源氏物語―物語空間を読む』(ちくま新書、一九九七年)

▼秋山虔『源氏物語』(岩波新書、一九六八年)

光源氏の王権回復



源氏物語【五十四帖】

第部	帖名	主な出来事	源氏の年齢
一	桐壺きりつば	光源氏誕生、元服。葵の上と結婚 雨夜の品定め	誕生〜12歳
二	帚木ははきぎ	人妻・空蟬への恋慕	17歳
三	空蟬うつせみ	夕顔がものけに襲われ急死	17歳
四	夕顔ゆうがわ	若紫(ちの紫)の上と出逢う。	17歳
五	若紫わかむらさき	藤壺女御との密通。藤壺の懐妊	18歳
六	末摘花すえとみ	醜女・末摘花と契りを結ぶ	18歳
七	紅葉賀もみじの	源氏が青海波を舞う。藤壺が産	18歳
八	花宴はなのえん	政敵の娘・臘月夜の君と結ばれる	20歳
九	葵あおい	葵の上出産後、死去。紫の上と結婚	22歳
十	賢木さかき	桐壺院死去。藤壺出家。臘月夜との密会発覚	23歳
十一	花散里はなざると	心休まる花散里との逢瀬	25歳
十二	須磨すま	源氏の須磨退去。明石の入道と出会う	26歳
十三	明石あかし	明石の君と契る。帰京し権大納言になる	27歳
十四	零標みおつくし	冷泉帝即位。明石の姫君誕生。六条御息所死去	28歳
十五	蓬生よもぎう	末摘花との再会	28歳
十六	閑屋せきや	空蟬との偶然の再会	29歳
十七	絵合えあわせ	御前絵合で須磨の日記絵の勝利	31歳
十八	松風まつかぜ	明石の君上洛	31歳
十九	薄雲うすぐも	紫の上が明石の姫君の養母になる。	31歳

第部 帖名

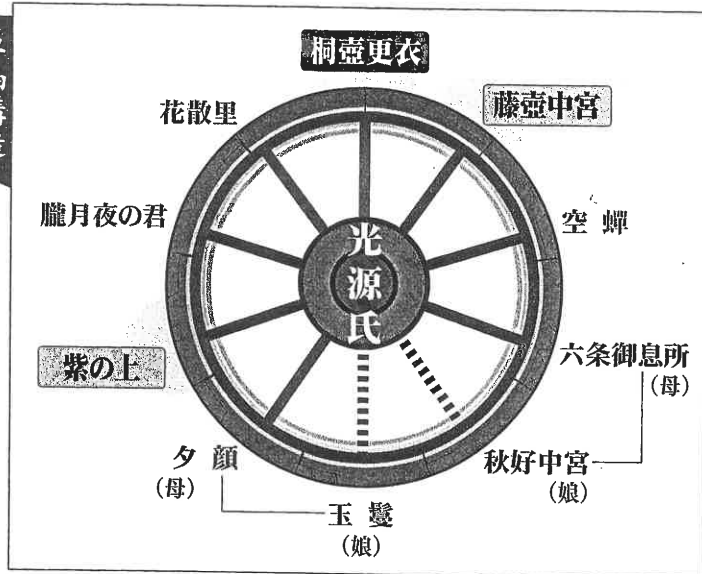
第部	帖名	主な出来事	源氏の年齢
二十	朝顔あさがお	朝顔の姫君に執心。紫の上の苦惱	32歳
二十一	少女おとめ	夕霧元服。源氏の養女が中宮秋好中宮に。	33歳
二十二	玉鬘たまかつら	源氏は太政大臣に。六条院落成	33歳
二十三	初音はつね	夕顔の娘・玉鬘上洛。源氏の養女になる	35歳
二十四	胡蝶こちょう	六条院の女君たちへの年賀訪問	36歳
二十五	蛸はたる	春、美しい玉鬘のお披露目。源氏の下心	36歳
二十六	常夏とこなつ	五月、蛸宮と玉鬘の逢瀬に蛸を放つ	36歳
二十七	篝火かがりび	夏、内大臣は近江の君を引き取る	36歳
二十八	野分のわき	源氏の玉鬘への思いは募る	36歳
二十九	行幸みゆき	秋の台風で六条院の庭が荒れる	36歳
三十	藤袴ふじばかま	翌二月、行幸。	36歳
三十一	真木柱まきはしら	玉鬘が宮仕えをすることになる	37歳
三十二	梅枝うめがえ	玉鬘、鬘黒に嫁ぐ	37歳
三十三	藤裏葉ふじのうら	明石の姫君の裳着	39歳
三十四	若菜上わなじょう	夕霧結婚。明石の姫君入内。	39歳
三十五	若菜下わなげ	源氏四十賀。女三の宮が源氏に嫁ぐ。	39歳
三十六	柏木かしわぎ	明石の女御が皇子出産	39歳
三十七	横笛よこふえ	冷泉帝即位。女葉開催。紫の上病む。	41歳
三十八	鈴虫すずむし	女三の宮が柏木の子を懐妊	41歳
三十九	夕霧ゆうぎり	女三の宮が薫を出産し出家する。柏木病死	48歳
		柏木の一周忌を迎え、夕霧は柏木の笛を譲り受ける	49歳
		出家した女三の宮への源氏の未練	50歳
		夕霧は落葉の宮を迎える。雲居雁は実家に帰る	50歳

第部 帖名

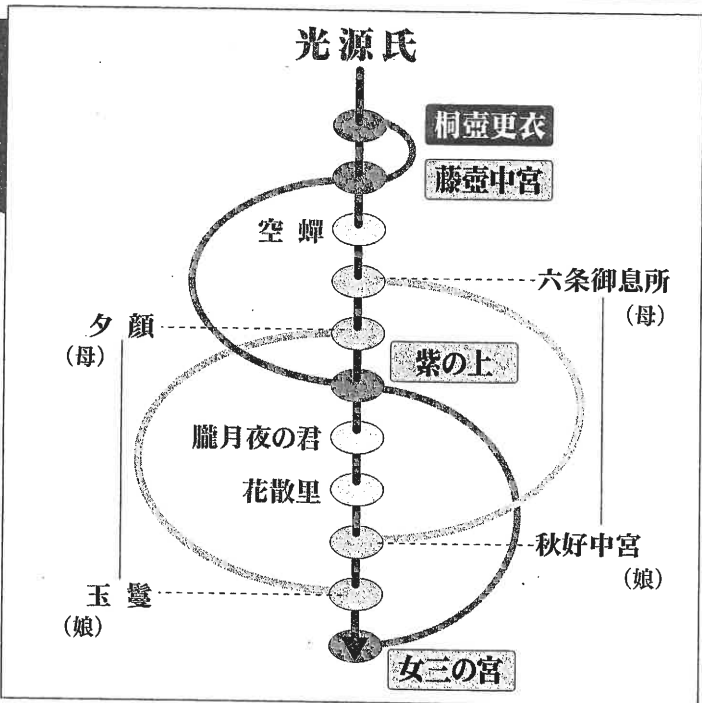
第部	帖名	主な出来事	源氏の年齢
四十	御法みのり	紫の上死去	51歳
四十一	幻まぼろし	源氏が出家を決意する	52歳
	雲隠くもがくれ	帖名のみで文章はない	
	【宇治十帖】		
四十二	勾宮おののみや	源氏の没後をになう勾宮と薫	
四十三	紅梅こうばい	勾宮は真木柱の娘に心ひかれる	
四十四	竹河たけかわ	鬘黒と玉鬘の娘大君をめぐる男君たち	
	【宇治十帖】		
四十五	橋姫はしひめ	源氏の異母弟・八の宮を慕う薫は、	
四十六	稚本しいがもと	宇治で出生の秘密を知る	
四十七	総角あげまき	八の宮死去。	
四十八	早蕨さわらび	勾宮と結ばれた中の君を案じて大君が病死	
四十九	宿木やどりぎ	薫も中の君に惹かれる	
五十	東屋あずまや	勾宮と夕霧の娘の結婚。	
五十一	浮舟うきふね	薫は女三の宮と結婚。薫が浮舟に出会う	
五十二	蜻蛉かげろう	勾宮が浮舟に言い寄る。	
五十三	手習てならい	薫は浮舟と結ばれ宇治にかくまう	
五十四	夢浮橋ゆめうきはし	勾宮は薫を装い浮舟を奪う。	
		浮舟は死を決意する	
		行方不明の浮舟の葬儀と法事	
		横川の僧都に助けられた浮舟は出家する	
		薫は浮舟に会おうとするが拒絶される	

光源氏と女君たちの構造

車軸構造



らせん構造



源氏物語 関係系図

帝 — 婚姻関係 — 男女関係

